

別海町立西春別小学校 学校だより



からまつ No.12

平成30年10月17日発行 発行責任者 校長 金森 卓哉

## 学芸会を通しての成長

校長 金森 卓哉

グラウンドの道路沿いに並ぶミズナらは、たくさんの実（どんぐり）を地面に落としております。今年、昨年に比べ随分多いようにも思えます。

先週の土曜日（13日）は、本校で学芸会を実施することができました。保護者の皆様、祖父母の方や親類の方、地域の方々と多くのご参観をいただきました。各学年からは劇と音楽が発表されました。それと全校児童35名によるものとして合唱で2曲、民舞として「江差餅つきばやし」も発表いたしました。子どもたちは、お客様に初めて観ていただくということで、かなりの緊張をしながらも一生懸命な姿をみせていました。11日（木）に総練習を実施したのですが、その時以上に完成したものとなったと思えました。総練習では、例えば劇などで、台詞が子どもたちどうしのやりとりになってしまい、お客さんに「伝える」という側面が弱かったように思えました。それが、その後の先生と子どもたちの練習で改善されて本番の発表になりました。学芸会の発表とは、改善を繰り返したものの発表なのかもしれません。子どもたちの発表が始まりますと、観てくださっているお客さまの座席がシーンと静まり、子どもたちの台詞の声や演奏の音が会場に響きだします。子どもたちとお客さまが演技や台詞、歌声や合奏を媒体に1つに繋がっているようにも見えてきました。

この学芸会という学習の場を通して、子どもたちは様々なことを学ぶことになります。「練習をすることで上達するという努力や練習の大切さ」、「皆で協力する必要性」、「みんなで1つの物を創り上げる感動」など、学びや発見が多くあるのが学芸会という学習だと思うのです。その中で、一人一人の子どもは、「自分はこんなにできるんだ」という自信が生まれたり、「もっと頑張ってみよう」という意欲が生まれたりするものです。もしかすると、「自分はこんな事もできるんだ」という「新しい自分を発見する場」が学芸会にはあるのかもしれませんが、それは、自分で気付く場合もあるかもしれません。友達や先生に言われて気付くこともあるかもしれません。学芸会が終わり保護者の皆様から誉められた言葉で気付くかもしれません。大人である私たちは、子どもをしっかり見つめることを通して、その子の良さを見つけそれをしっかり認めてあげることが大切な役目ではないでしょうか。そして、子どもたちがこの行事で得た「自信」や「意欲」を次の学習に生かしていけるようにしてあげたいものです。

学芸会が終わり、会場が明るくなり後片付けが始まりだします。私たち職員は11名ですが、来てくださったたくさんのお父様、お母様やお客様方がご協力くださり後片付けが着々と進みます。卒業生である中学生も体が大きくなり、パワーもアップして後片付けに協力してくれます。西春別小学校は行事終了後の後片付けでPTAの方々や参観して下さった方々、そして卒業生の協力があることが素晴らしいと思えるのです。この繋がりが学校の財産と考えております。毎回のご協力、本当にありがとうございました。

蝦夷山桜の葉のほとんどは地面に落ちましたが、他の木々はそれぞれの紅葉（黄葉）を見せております。よく観ますと、最後に紅葉する唐松の葉が僅かに色を変えてきているようにも見えます。秋の終わりがいっぴい近づいております。

